

学校便り 2月号

令和4年1月26日発行

和歌山市立岡崎小学校

「人とのつながり」

2022年が明けて1か月が経とうとしています。「新年あけましておめでとうございます」という新年のあいさつもそろそろ時期遅れかな?となる頃ですが、2022年の年明けに決めた今年の計画は、「初心忘るべからず」でこの一年がんばり通したいところです。

さて、1月15日に南太平洋のトンガ諸島で海底火山の大規模噴火があり、太平洋沿岸の広い地域で16日にかけて津波が観測されました。和歌山でも、潮位の上昇が発表され、津波注意報が出されました。真夜中に急遽入った情報で、心細く過ごした方もおられたと思います。

27年前の平成7年1月17日、阪神・淡路大震災がありました。小学生はもちろんのこと、社会人であっても経験したことがなく、伝え聞いた事柄や情報で知っている方もおられることだと思います。神戸市中央区の公園「東遊園地」では16日、半日早く灯籠の点灯が始まりました。震災を忘れないという意味を込めて「忘」という文字が並べられました。被災された方、被災された方のご家族の方など当事者の方々は忘れられない災害となり、未だに苦しんでおられる方もたくさんいます。わたしたちは、この「忘」の文字のように、この災害について学んだことや、この災害のことを伝えなくてはと奮闘されている方がおられることを決して忘れてはならないと思います。

自然の中で生きているわたしたち人間にとって、あらがえない出来事が数多くあります。天災もそうですが、現在感染拡大の猛威を振るっている新型コロナウイルスも、たくさんの医療従事者の方々の努力に支えられながら、わたしたちは日々闘っています。

猛威を振るう相手が自然であっても、病原菌であっても、「人を救うのは、人しかいない」と感じさせられます。とんでもない出来事が自分の身に降りかかることがあっても、生きている以上、前に進むことしかできませんし、進まなくてはなりません。そこで、助けてくれるのが人であるのだと最近特に実感します。

小学校で子供たちが学ぶことには、教科学習だけでなく、子供同士の関わりや協働性を通しての学びがあります。つまり、人との関係性の構築です。近い将来、より広い社会へ出ていく子供たちに、学校教育のなかで社会と共有することを目指し、どのような力を育むことができるのか、人であるわたしたち学校関係者も日々考え、指導支援しています。

今年も、保護者の皆様のご理解ご協力をよろしく願いいたします。

(教頭 面村 里美)